

教科	国語	科目	現代の国語	学年・類型	1年生	履修形態	必修	授業時数	週2時間
使用教科書	東京書籍「現代の国語」								
副教材等	問題集、便覧								
学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 								
授業の進め方、学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 評論では、段落相互の関係をつかみ、論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また、具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え、物事を根本から考える姿勢を学ぶ。 2 実用的文章などを用いながら探究的な取り組みを行う。読むこと、書くこと、聞くこと、話すことなどを粘り強く、学習課題に沿って、具体的な言語活動を行う。 3 単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。 								
学習計画									
学期	単元	学習内容	評価規準						
1学期	読解『木を見る、森を見る』	<ol style="list-style-type: none"> 1 「視点を変える」ことの意義について考える。 2 「視点を帰る方法」や「ゲシュタルト的な見方」が具体的にどのような方法を見方か、本文の論旨をもとに読み取り、まとめる。 3 具体例を挙げて、ものの認知の仕方における問題点をつかむ。 4 現代の社会における問題の一つを取り上げ、「木を見る」視点と「森を見る」視点の両方で現状を調べる。 	<p>【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 「読む」ことにおいて、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。比喩、例示、言換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。</p>						
	読解『水の東西』	<ol style="list-style-type: none"> 1 「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 2 二つの概念を対比して論じる二項対立で展開されていることを押さえる。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く要点を把握し学習課題に沿って視点を変えてみることを理解し、自ら論点における課題を調べようとしている。</p>						
	探究『発想を広げて課題を見つける』	発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝える。							
	1学期中間考査								
	読解『「身銭」を切るコミュニケーション』	<ol style="list-style-type: none"> 1 「コミュニケーション」という言葉から具体的に思い浮かべる事柄や、それに対して持つ考えやイメージを発表する。 2 「コミュニケーション」が不調だった場合に見られる、二つの対照的な対応の仕方とそれらに対する筆者の考えについて理解する。 	<p>【知識・技能】 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。</p>						
	読解『言葉は世界を切り分ける』	<ol style="list-style-type: none"> 1 他言語と比較することで言葉の意味のあり方を理解し、言葉に関心を持って言語生活を豊かにする。 2 言葉の働きについて筆者の主張を踏まえて考えたことをまとめる。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く解釈についての筆者の考えを理解し、学習課題に沿って、本文の要点をまとめようとしている。</p>						
探究『新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる』	<ol style="list-style-type: none"> 1 グループごとに、複数の新聞記事に目を通し、興味のある新聞記事を探し選ぶ。 2 グループごとに、記事情報カードをもとにQFTによる「問い」を作る。 3 「記事情報カード」を活用し選んだ問いをもとに意見文を書く。 								
1学期期末考査									
2学期	読解『広告の形而上学』	<ol style="list-style-type: none"> 1 広告やコマーシャルを見て、どう利用し、どのように見ているかについて、日頃感していることを挙げる。 2 プディングの例をもとに、資本主義社会における広告の役割について説明する。 3 広告の生み出す差異性が広告自身に価値を持たせ、その結果、広告自身が商品になってしまうことについて理解する。 	<p>【知識・技能】 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて捉え直したりしている。</p>						
	読解『時間と自由の関係について』	時間と自由の関係について筆者の主張を的確に読み取り内容を要約する。							
	探究『メディアを適切に使い分けながら、情報を収集する。』	<ol style="list-style-type: none"> 1 「子どものSNS利用の実態と是非」というテーマについて調べ合い、った例を参考に、学習の進め方を確認する。 2 「情報カード」に記入した情報を、「情報の発信者」「情報の信頼性」「情報の新しさ」「情報の分かりやすさ」の4つの観点から吟味する。 3 資料の読み手や目的に応じて内容や全体の構成を考えて、説明資料にまとめる。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」を使って情報を収集し、学習課題に沿って各メディアの特徴や長所や短所について話し合い、自分の考えを深めようとしている。</p>						
	2学期中間考査								
	読解『真の自立とは』	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における「できる」「できない」の構造と、それが人生に及ぼしている影響について読み取り、まとめる。 2 現代における「若い」や「大人」になることについて、筆者の言う「自立」という観点から考え、話し合う。 	<p>【知識・技能】 言葉に認識や思考を支える働きがあることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。</p>						
	読解『自立と市場』	筆者の主張を踏まえ、「自立」と「依存」の関係について具体例を挙げて考える。							
探究『情報を整理しながら話し合う』	<ol style="list-style-type: none"> 1 話し合いには種類があることを理解し、「s高校の生物部」の話し合いの例を参考に、「企画会議」の進め方を確認する。 2 グループごとに、話し合いの結果をクラス全体に発表し、成果と課題を共有する。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し、学習の見直しをもって提案内容を整理しながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。</p>							
2学期期末考査									
3学期	読解『生物の多様性とは何か』	<ol style="list-style-type: none"> 1 生態系が長い時間をかけて作りだしたバランスや生物が守っている「生態学的地位(ニッチ)」について読み取り、まとめる。 2 ヒトが考えなければならぬ「生命観と環境観のパラダイム・シフト」について読み取り、まとめる。 	<p>【知識・技能】 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しきなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。</p> <p>【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて、叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。</p>						
	読解『人工知能はなぜ椅子に座れないのか』	<ol style="list-style-type: none"> 1 人口知能に関して人間と比較しながら論じた評論を読み、両者の違いについて考える。 2 「場」と「身体」の関係に注意しながら、「こうした考え方を指しているかを読み取り、まとめる。」 							
	読解『<私>時代のデモクラシー』	<私>が尊重される現代社会におけるデモクラシーが抱える課題を理解し、視野を広げる。							
	探究『探究したことを発信する』	調査内容を模造紙などにまとめ、ポスターを作成する。その際、伝えたいことを明確に表現できるよう、タイトルの付け方や、記事・図表の配置などを工夫する。	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く筆者の考えと引用を読み解き、学習課題に沿って実社会における生き方について筆者の主張を理解し、自分の考えをまとめようとしている。</p>						
	3学期期末考査								
成績評価方法	<p>【知識・技能】 定期テストの結果や課題の提出状況で評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 レポート課題や発表において評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の観察によって評価する。</p>								

教科	国語	科目	言語文化	学年・類型	1年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間
使用教科書	東京書籍「言語文化」								
副教材等	問題集、文法書、漢文参考書、便覧								
学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>1生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>2論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>3言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>								
授業の進め方、学習方法	<p>1. 文学的な文章・詩歌に描かれた人物・情景・心情などを、表現に即して読み味わい、的確にとらえる。</p> <p>2. 文や文章の組み立て、語句の意味・用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。</p> <p>3. 文語のきまり(歴史的仮名遣い、用言・助動詞の用法、係り結び、敬語法、音便等)を理解する。</p> <p>4. 訓読のきまり(訓点、書き下し文)を理解し、漢文特有の表現に親しむ。</p>								
学 習 計 画									
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準						
1学期	古文学習の基礎 ・歴史的仮名遣い ・古語と現代語 ・五十音図といはる歌 古文「格言と故事」 助長、推敲、 小説「羅生門」	古文を読むための基礎を身につける。 文中の主語の省略を補って古文を読む。 品詞の区別ができるようにする。動詞の活用を覚える。 古典の授業開きとし、今後の古典学習のガイダンスとする。 平安期を想定した小説に親しみ、話の展開や主題を読み取る。 作品に即して描かれた場面や作中人物の心情を的確にとらえる。	【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。						
	1学期中間考査								
	漢文学習の基礎 返り点、送り仮名、書き下し文、 置き字、再読文字・語順 漢文「格言と故事」 助長、推敲、 古文随筆 「徒然草」「ある人弓射ることを習ふに」 物語「伊勢物語」芥川 東下り 短歌抄・俳句抄	漢文を読むための基礎を身につける。 現在の言語生活にも生きる故事成語について、理解と関心を深める。 随筆を読み、昔も今も変わらない人間の心理を探る。 歌物語を通して登場人物の心情を読み取り、叙情性を味わう。 古文の表現について理解と関心を深め、觀賞する力を養う。 形容詞・形容動詞の活用、助動詞の活用、意味、接続を理解する。 短歌・俳句の言葉のはたらきを知り、表現の特色を理解する。それぞれの作品について鑑賞文を作り、相互に批評し合う。	【知識・技能】 我が国の言語文化の特質と我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。句切れ・季語・不定型などの知識が理解できたか。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって、古典を学ぶ意味について考えを持っている。						
1学期期末考査									
2学期	古文 物語「竹取物語」 天の羽衣 富士の山 漢文 寓話「借虎威」「朝三暮四」 「塞翁馬」 小説「富嶽百景」	物語に描かれた平安時代の人々のもの見方や感じ方について知る。 伝奇物語の世界を通じ、夢や空想の世界にふれる楽しさを味わう。 漢文における論理展開と簡潔な表現とを読み味わう。 故事成語のについての理解を深める。漢文の重要表現の種類と用法を確認し、整理する。	【知識・技能】 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、話の展開や登場人物の言動を読み取り、寓話に込められた意図について考えようとしている。						
	2学期中間考査								
	古文 日記文学「土佐日記」 馬のはなむけ 帰京 漢文「唐詩」鹿柴 送元二使安西 春望 香炉峰下～ 漢文 史話「管鮑之交」 読む 恋の歌を読み比べる	月の異名、方角、時刻を理解する。 日記文学に触れ、心情がどのように描かれているかを理解する。 日記の表現上の特色について、理解と関心を深める。 漢詩文を読み、特有の表現に慣れ、内容を理解する。 漢詩の形式を理解する。 情景描写に注意して作者の心情を味わう。 史話のおもしろさを味わい、中国の歴史に親しむ心を養う。	【知識・技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通じて、五感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで漢詩の形式ときまりを理解し、学習課題に沿って、漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しもうとしている。						
2学期期末考査									
3学期	古文 和歌 「万葉集・古今集・新古今集」 漢文 論語 学問を語る 人生を語る 政治を語る 読む 桜に関する作品を読み比べる	和歌の魅力を知る。 三つの歌集の特徴を把握し、時代の変化との関連について考察する。 孔子の生き方、考え方を学び、学問・人生・政治について考える。 桜についての詩歌や文章を通読し、随筆において、桜を巡る筆者の考えがどのように変化しているか、まとめる。	【知識・技能】 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 【思考・判断・表現】 孔子の思想に興味を持ち、もの見方や考え方を豊かにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで桜に関して書かれた多様な形式の作品を読み比べ、学習課題に沿って、日本文化における桜のありようを探ろうとしている。						
	学年末考査								
成績評価方法	<p>【知識・技能】 定期テストの結果や課題の提出状況で評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 レポート課題や発表において評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の観察によって評価する。</p>								

教科	公民	科目	公共A	学年・類型	1年生	履修形態	必履修	授業時数		週1時間	
使用教科書	公共(東京書籍)										
副教材等	2022フォーラム公共(とうほう) 公共ワークシート(東京書籍)										
学習目標	<p>①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>②現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れ、ながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>										
授業の進め方、学習方法	教科書、資料集で得た知識を活用するワークショップ形式の授業を実施する。学習の成果をレポートにまとめ、発表する。										
学 習 計 画											
学 期	単 元	学 習 内 容					評 価 規 準				
1学期	経済社会で生きる私たち	現代の経済と市場 市場経済における金融の働き					【知識・技能】 経済のしくみ、グローバル化の影響について理解する 現代の金融のしくみについて理解する。日本の財政の役割と課題について理解する。 【思考・判断・表現】 日本経済が抱える課題を認識し、解決の道筋を考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本経済の現状と課題について、様々な情報を積極的に収集する。				
	経済社会で生きる私たち	財政の役割と持続可能な社会保障制度					【知識・技能】 同上 【思考・判断・表現】 同上 【主体的に学習に取り組む態度】 同上				
	1学期期末考査										
2学期	私たちの職業生活	働くことの意義と職業選択 労働者の権利と雇用・労働問題					【知識・技能】 働く意義と様々な職業が存在することを理解する。労働者の権利、日本の雇用・労働問題を理解する。 【思考・判断・表現】 労働者の権利、日本の雇用・労働問題についての知識を活用し、雇用、労働問題の解決の道筋を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本の雇用・労働問題についての情報に積極的にアクセスし、自らその解決について考える。				
	国際社会で生きる私たち	グローバル化する国際経済 SDGsの達成に向けて					【知識・技能】 国際社会のルールとしくみを理解する。 【思考・判断・表現】 国際社会のルールとしくみについての知識を活用し、様々な国際問題について、解決の道筋を考える事ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な国際問題についての情報に積極的にアクセスし、自らその解決について考える。				
	2学期期末考査										
3学期	持続可能な社会づくりに参画するために	探究のプロセスを学ぶ					【知識・技能】 現代社会の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集する。 【思考・判断・表現】 収集した情報を分析し考察する。そこから得た結論をまとめて発表する。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題解決に向けた情報収集に積極的に取り組む。				
	学年末考査										
成績評価方法	【知識・技能】 定期テストの結果や課題の提出状況で評価する。 【思考・判断・表現】 レポート課題や発表において評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の観察によって評価する。										

教科	公民	科目	公共B	学年・類型	1年生	履修形態	必修	授業時数	週1時間
使用教科書	公共（東京書籍）								
副教材等	2022フォーラム公共(とうほう) 公共ワークノート(東京書籍)								
学習目標	<p>①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>②現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>								
授業の進め方 学習方法	教科書、資料集で得た知識を活用するワークショップ形式の授業を実施する。 学習の成果をレポートにまとめ、発表する。								
学 習 計 画									
学 期	単 元	学 習 内 容					評 価 規 準		
1学期	公共的な空間における人間としての在り方生き方	現代の世界と宗教 功利主義と幸福の原理 生命倫理について考える 環境倫理について考える					【知識・技能】 世界の宗教の教えを理解し、人間社会への影響について理解する。功利主義について学び、生命、環境の在り方について理解する。 【思考・判断・表現】 宗教、生命、環境について多角的な視点で捉え、自らの考えを持つことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 宗教、生命、環境に関する情報に積極的にアクセスし、自らの考えを深めることができる。		
	公共的な空間における基本的原理	人間としての在り方生き方の探求—先哲の思想に学ぶ ゼミナール日本国憲法の基本原理					【知識・技能】 先哲の思想を理解する。民主政治の考え方を理解する。日本国憲法の基本原理について理解する。 【思考・判断・表現】 先哲の思想や民主政治についての理解を元に、様々な社会課題について自らの考えを持つことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会の一員として社会課題の解決に積極的に取り組み、主権者としての役割を果たすことができる。		
	1学期期末考査								
2学期	民主政治と私たち 法の働きと私たち	民主政治と政治参加 法や規範の意義と役割					【知識・技能】 法や規範の意義や役割を理解する。 【思考・判断・表現】 法や規範の意義や役割を理解し、社会で発生するトラブルや紛争の解決策を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々なトラブルや紛争の事象について自ら調べ、その解決策を考えることができる。		
	民主政治と私たち 法の働きと私たち	模擬立法をやってみよう 市民生活と司法 国民の司法参加					【知識・技能】 上記と同じ 【思考・判断・表現】 上記と同じ 【主体的に学習に取り組む態度】 上記と同じ		
	2学期期末考査								
3学期	国際社会の中で生きる私たち	国際社会のルールとしくみ 国際社会と平和主義 国際平和への課題					【知識・技能】 国際社会のルールとしくみを理解する。 【思考・判断・表現】 国際社会のルールとしくみについての知識を活用し、様々な国際問題について、解決の道筋を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な国際問題についての情報に積極的にアクセスし、自らその解決について考える。		
	学年末考査								
成績評価方法	【知識・技能】 定期テストの結果や課題の提出状況で評価を行う。 【思考・判断・表現】 レポート課題や発表において評価を行う。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の観察によって評価を行う。								

教科	数学	科目	数学Ⅰ・数学Ⅱ	学年・類型	1年生	履修形態	全員履修	授業時数	週4時間	
使用教科書	数研出版「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」									
副教材等	傍用問題集(サクシード数学Ⅰ+A、サクシード数学Ⅱ+B)、参考書(チャート式基礎からの数学Ⅰ+A、チャート式基礎からの数学Ⅱ+B)									
学習目標	数学Ⅰ 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。									
授業の進め方、学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感できるようにする。 2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。 3.計算力をつける演習をする。 4.自分で考え、解く時間をとる。 5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。 6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。 7.定期考査前の演習・長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。									
学 習 計 画										
学期	単 元	学 習 内 容						評 価 規 準		
1学期	数学Ⅰ 第1章 数と式	1. 式の計算 2. 実数 3. 1次不等式						【知識・技能】 単項式や多項式、整式、同類項、次数について理解し、整式を降べきの順、昇べきの順に整理できる。式の形の特徴に着目して変形し、展開公式、分配・結合等法則が適用できる。根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の単純化ができる。指数法則を理解し、根号が計算できる。不等式の性質を理解しており、1次不等式、連立不等式を解くことができる。集合の関係を記号を用いて表すことができるベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。 【思考・判断・表現】 実数を数直線上の点の座標としてとらえられる。また、実数の大小関係と数直線を関係づけて考えられる。根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。身近な問題を1次不等式の問題に帰着させることができる。ベン図・モルガンの法則などを用いて、集合を視覚的に表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実数と数直線上の点の座標とを対応させ、また、実数の大小関係と数直線を関係づけて考えられる。根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。身近な問題を1次不等式の問題に帰着させることができる。ベン図・モルガンの法則などを用いて、集合を視覚的に表現できる。展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算を展開を利用しようとする。根号を含む式の計算公式を証明しようとする。事象を不等式で表すことができ、1次不等式の問題を解くことができる。集合を事象の考察に活用する。		
	数学Ⅰ 第2章 集合と命題	1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明						【知識・技能】 集合の包含関係や反例などを調べることで、命題の真偽を決定することができる。必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解して使える。 【思考・判断・表現】 命題の真偽を、集合の包含関係に結びつけてとらえることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 命題の逆・対偶の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。対偶による証明法と再帰法のしくみを理解し、これらを活用して命題を証明することができる。		
	1学期中間考査									
1学期	数学Ⅰ 第3章 2次関数	1. 2次関数とグラフ 2. 2次関数とグラフ 3. 2次関数と方程式・不等式						【知識・技能】 2次関数のグラフの軸、頂点について理解している。2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得、それを積極的に利用しようとする。平方完成を利用して、グラフの平行移動とともに理解している。2次関数の定義域・値域がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。2次方程式の解き方として、因数分解利用、解の公式利用・グラフの利用やそれらの併用ができる。 【思考・判断・表現】 2次関数のグラフがグラフから考察できる。2次方程式の解や2次関数のグラフとx軸との共有点の個数や位置関係、判別式の符号から考察することができる。放物線の対称移動の一般式を考察しようとする。定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常的に学習に取り組む態度 2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。身近な問題を2次不等式で解決しようとする意欲がある。日常生活で見られる数値の具体例を見つけて考察しようとする。日常生活の中で、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。		
	1学期期末考査									
	数学Ⅰ 第4章 図形と計量	1. 三角比 2. 三角形への応用 3. 正弦定理と余弦定理 4. 図形の計量						【知識・技能】 正弦・余弦・正接を直角三角形における辺の比の関係として導入し、その意味を理解する。 角を鈍角や、0°、90°、180°の場合まで拡張し、正弦・余弦・正接の意義を理解できるようにする。また、それらの相互関係について学習し、計算ができるようになる。 三角形ABCのそれぞれの辺と角との間に成り立つ基本的な関係を理解し、式の取り扱いができるようになる。 正弦定理や余弦定理などの活用場面として、平面図形や簡単な空間図形の計量を扱い、いろいろな図形の辺の長さ、面積・体積などが求められるようになる。また、相似な図形の面積比と体積比、球の表面積と体積についても学習する。		
2学期中間考査										
2学期	数学Ⅰ 第5章 データの分析	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。データを整理し統計処理をほどこすことにより、内容の分析や推定などを行えるようにする。						【知識・技能】 平均値、分散、標準偏差、相関係数を、表計算ソフトの関数を利用して求められる。 【思考・判断・表現】 散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察する変量の交換によって、平均値や分散がどのように変化するか、考察しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 データを整理し統計処理をほどこすことにより、内容の分析や推定などを行えるようになる。		
	数学Ⅱ 第1章 式と証明	1. 式と計算 2. 等式と不等式の証明						【知識・技能】 二項定理の導き方を理解し、二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 二項定理とパスカルの三角形を結びつけて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 二項定理を等式の証明に活用する。等式の証明を通して、数学の論証に興味・関心をもち、相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明しようとする。		
	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式	1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別 3. 解と係数の関係						【知識・技能】 2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 【思考・判断・表現】 解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。		
2学期期末考査										
3学期	4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	複素数を読んでいつでも高次方程式が解をもつことを理解する。また、実際に割り算をしなくても剰余が求められる方法を学び、新しい場面でも数学を活用できる態度を育てる。						【知識・技能】 剰余の定理を利用して、整式を1次式や2次式で割ったときの剰余を求めることができる。 【思考・判断・表現】 2次方程式の解に関する種々の問題を、解と係数の関係を利用して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 因数分解や因数定理を利用することにより、高次方程式を解くことができる。		
	第3章 図形と方程式	1. 点と直線						【知識・技能】 図形的条件(点対称、線対称など)を式で表現できる。直線の方程式を利用して、図形の性質を証明することができる。 【思考・判断・表現】 点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。		
	3学期期末考査									
成績評価方法	1. 定期考査の成績 * 定期考査においては、知識・技能・処理・思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方を磨くための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸びの状況などを評価する。 (3) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。									

教科	数学	科目	数学A	学年・類型	1年生	履修形態	必修	授業時数	週2時間
使用教科書	数研出版「数学A」								
副教材等	傍用問題集(サクシード数学I+A)、参考書(基礎からのチャート式数学I+A)								
学習目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
授業の進め方 学習方法	1.公式や定理の成り立ちや成立過程を含めて必要性を実感できるようにする。 2.「予習→授業→復習」のサイクルの確立。 3.計算力をつける演習をする。 4.自分で考え、解く時間をとる。 5.事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、自分の考えを数学的に表現し、わからないことについて議論する。 6.事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。 7.定期考査前の演習・長期休業を利用して発展的な課題にも挑戦し、より高い視点で物事を眺められるようにし、さらに自己内に新たな疑問の萌芽を養成する。								
学 習 計 画									
学 期	単 元	学 習 内 容					評 価 規 準		
1 学期	第1章 場合の数と確率	1. 場合の数 具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せについて理解し、事象を数学的に考察し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 2. 確率 具体的な事象の考察などを通して、不確定な事象を数量的にとらえることこの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し、処理できるようにする。					【知識・技能】 事象に応じて、和の法則、積の法則を使い分けて場合の数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 具体的な問題に対して、どのような場合に、円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めて、それらの公式を使うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。		
	1学期中間考査								
2 学期	第2章 図形の性質	1. 平面図形 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 2. 空間図形 平面図形で培った図形のいろいろな概念や定理をさらに空間の図形に対しても応用できるようにする。さらに、体積などの求積も行う。					【知識・技能】 三角形の外心、内心、重心に関する性質や相互関係を証明することができる。円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めたり、図形の性質を証明できる。 【思考・判断・表現】 様々な平面図形に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学で扱う作図と、日常において図形をかきこくことでは、何が違うか考えてみようとする。三垂線の定理について関心を持ち、その意味を理解しようとする。様々な空間図形や多面体に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。		
	2学期中間考査								
3 学期	第3章 数学と人間の活動	1. 約数倍数素数と因数分解 2. GCMLCM整数の割り算 3. 命題と証明 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。					【知識・技能】 最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して、2数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその2数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 互いに素な整数の性質を利用して、簡単な命題を証明することができる。然数を素因数分解したときの素因数に着目して解く応用的な問題について、その考え方に興味をもち、取り組もうとする。また、その解法を理解し、問題を解くことができる。		
	2学期期末考査								
3 学期	3. ユークリッド互除法 4. 1次不定方程式 5. 記数法	整数に関する数学史に興味をもち、主体的に学習し、数学のよさを認識する。					【主体的に学習に取り組む態度】 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察し、一般にも適用できることに気付く。整数に関する問題を、1次不定方程式に帰着させることができ、問題を解くことができる。		
	学年末考査								
成績評価方法	1. 定期考査の成績 * 定期考査においては、知識・技能・処理、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、数学的な考え方ををみるための問題を出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 普段の授業に取り組む姿勢・態度 (2) 授業時などの学習過程で【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】などの項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (3) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。 以上のすべてを対象に、総合的に判断する。								

教科	理科	科目	物理基礎	学年・類型	1年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間	
使用教科書	物理基礎(数研出版)									
副教材等	新課程リードα物理基礎(数研出版)									
学習目標	さまざまな物理現象を取り扱い、観察、実験などを通して物理的に考察する能力と態度を身につける。 物理現象を説明するためのことば(物理量)を覚え、物理量と物理量の間にある関係(物理法則)を理解し、それらを使って物理現象を説明していく。									
授業の進め方、 学習方法	物理現象を理解するための物理量や物理法則の説明が授業の中心となる。また、理解を深めるために適宜、問題演習や実験などを行う。提出課題としては、指定問題集の考查範囲の問題を調査ごとに解答し、提出する。授業では受け身にならず、自ら物理現象を説明できるように積極的に手と頭を働かせて取り組んでいかなければならない。									
学 習 計 画										
学 期	単 元	学 習 内 容					評 価 規 準			
1 学期	運動の表し方	指数の計算法、有効数字について学ぶ。 速度と速度の合成、相対速度について学ぶ。 ベクトル量の取り扱い方を学ぶ。 等速直線運動について学ぶ。 $x-t$ グラフ、 $v-t$ グラフについて学ぶ。 加速度について学ぶ。 等加速度直線運動の3公式について学ぶ。					【知識・技能】 物体の速度等が求められる。 等加速度直線運動の3公式を使用し、計算できる。 【思考・判断・表現】 $x-t$ 、 $v-t$ グラフから物体の運動が説明できる。 式を使用し、物体の運動について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。			
	1学期中間考査									
	落体の運動 力のつりあい	落体の運動が等加速度運動であることを学ぶ。 物体に働く力である、重力・垂直抗力・張力・弾性力の性質について学ぶ。 物理法則である、作用反作用の法則を学ぶ。 静止している物体に働く力のつり合いについて学ぶ。					【知識・技能】 落体の運動について単純な計算ができる。 物体に働く様々な力の作図ができる。 【思考・判断・表現】 落体の運動について複雑な計算ができる。 力のつり合いの式から力の大きさと向きを求める。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。			
1学期期末考査										
2 学期	運動の法則 仕事と力学的エネルギー	さまざまな現象について、運動方程式の使い方を学ぶ。 さまざまな力のする仕事について学ぶ。 仕事の原理について学ぶ。 仕事率について学ぶ。 運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギーについて学ぶ。 力学的エネルギー保存の法則について学ぶ。					【知識・技能】 運動方程式を立てることができる。 仕事とエネルギーについての式を立てて計算できる。 【思考・判断・表現】 摩擦や複数の物体の運動方程式を計算できる。 仕事とエネルギーの関係を正確に考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。			
	2学期中間考査									
	熱とエネルギー 波の性質	セルシウス温度と絶対温度について学ぶ。 熱量保存の法則と熱容量、比熱の関係を学ぶ。 熱力学第1法則について学ぶ。 波動現象の基本である等速円運動と単振動を学ぶ。 縦波と横波、正弦波の式、位相について学ぶ。					【知識・技能】 温度の意味を理解し、熱量の計算ができる。 波動の基本的な物理量を求めることができる。 【思考・判断・表現】 熱量保存や熱力学第1法則の式を扱える。 波動現象の意味を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。			
2学期期末考査										
3 学期	平面上を伝わる波 音の伝わり方と発音体の振動 物質と電気抵抗 交流と電磁波	波の重ね合わせの原理、干渉、定常波、波の反射について学ぶ。 波の反射・屈折の法則、波の回折現象について学ぶ。 音の速さ、反射、屈折、干渉について学ぶ。 弦の振動と気柱の振動について学ぶ。 気柱の共鳴現象を学ぶ。 摩擦電気と静電気力について学ぶ。 磁場中の電流にはたらく力について学ぶ。 電磁誘導現象について学ぶ。 交流について学ぶ。					【知識・技能】 波動の屈折や反射について理解することができる。 弦や気柱の振動について定常波の作図ができる。 基本的な電気の現象について理解できる。 【思考・判断・表現】 波動の重ね合わせについて現象を説明できる。 開口端補正などについて共鳴現象から計算できる。 電磁誘導等について正しく理解し説明ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象を学習内容に基づいて説明できる。			
	学年末考査									
成績評価方法	【知識・技能】 授業での取組や定期考査の基本的な出題などにおいて総合的に評価する。 【思考・判断・表現】 授業での取組や定期考査の応用的な出題などにおいて総合的に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業での取組や授業中に行う特別課題、課題の提出状況などにおいて総合的に評価する。									

教科	理科	科目	化学基礎	学年・類型	1年生	履修形態	必修	授業時数	週1時間
使用教科書	化学基礎（東京書籍）								
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍)								
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質やその変化に注目し理解する。 2 科学的に探求するために必要となる観察や実験に関して基本的な知識や技能を身につける。 3 観察や実験を通して、科学的に探求しようとする力を養う。 4 化学の原理や法則を理解することで、科学的な考え方を養う。								
授業の進め方、学習方法	1 自作プリントを用いることにより発展的な内容も取り入れながら授業を行い、系統的に理解を深めていく。 2 小テストを取り入れることにより、知識の定着を図る。 3 集団での議論を取り入れるなど、授業への能動的な参加を促す。 4 定期考査毎に問題集のノート提出で課題に取り組み、定期考査後や長期休業中には復習に重点を置くことにより基礎力の定着を図る。								

学 習 計 画				
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準	
1学期	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分 2節 物質の構成元素 3節 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品を構成する物質とその用途 純物質と混合物 混合物の分離法 元素とその確認 単体と化合物 粒子の熱運動と状態変化 粒子の熱運動 	【知識・技能】 純物質と混合物では性質が異なり、分離する方法があることや物質には三態が存在し、粒子の状態が異なることなどの理解で評価する。 【思考・判断・表現】 身の回りの化学物質がどのような目的で利用されているのかや、どのような反応を利用すれば元素の確認ができるかなどの判断で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や課題に対する取り組みで評価する。	
	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 1節 原子の構造 2節 電子配置 3節 元素の周期表 2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造 同位体とその利用 原子の電子配置 周期表 イオンの生成 イオンの分類 イオン半径 イオン結合とイオン結晶 	【知識・技能】 原子の構造およびその構成粒子の性質や、イオンの性質と成り立ちおよびイオン結合についての理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 周期表で表すことにより、族と周期についてどのようなことが考えられるかなどの判断で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や小テストに対する取り組みで評価する。	
	1学期期末考査			
2学期	2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合	<ul style="list-style-type: none"> 共有結合の成り立ち 共有結合と分子の形成、およびその形 配位結合 電気陰性度と分子の極性 分子結晶 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶 	【知識・技能】 共有結合の形成から分子の成り立ちと構造式や、自由電子の性質と金属の特徴などの理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 電気陰性度の差による結合の極性と分子の形状により分子の極性を判断できるかなどで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 身の周りの高分子化合物や合金について知ろうとする態度などで評価する。	
	2学期中間考査			
	4節 化学結合と物質の分類 3編 物質の変化 1章 物質質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> 化学結合と物質の分類 原子の相対質量 原子量 分子量 式量 アボガドロ数と物質質量 1 molの気体の体積 	【知識・技能】 原子量・分子量・式量の値が示すものや、物質質量と気体の体積など、物質質量を中心とした量的関係の理解などで評価する。 【思考・判断・表現】 元素の種類から結合を判断し、結合の種類と物質の性質の関連を考察できるかなどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に臨む態度や課題・小テストに対する取り組みで評価する。	
2学期期末考査				
3学期	3節 溶液の濃度 4節 化学反応式の表し方 5節 化学反応式の表す量的関係	<ul style="list-style-type: none"> 溶液の濃度 化学反応式 イオン反応式 化学反応の表す量的関係 反応物の過不足 化学の基本法則 	【知識・技能】 濃度の計算、化学反応式やイオン反応式の作り方、化学反応式を用いた量的関係の理解などで判断する。 【思考・判断・表現】 化学の基本法則の問題点に対しどのように考え、新たな法則に達するかなどについて考察できるかなどで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 食酢など身の回りの物質の濃度の変換の取り組みなどで評価する。	
	学年末考査			

成績評価方法	【知識・技能】 定期考査の基本的な出題などにおいて知識を、実験操作等で技能の習得を判断する。
	【思考・判断・表現】 授業における発表内容やICT機器の活用、定期考査における応用的な出題・記述問題、実験に関するレポートなどにおいて判断する。
	【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や授業態度、実験や課題に対する取り組みなどで判断する。

教科	理科	科目	生物基礎	学年・類型	1年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間
使用教科書	啓林館 高等学校 生物基礎								
副教材等	第一学習社 新課程版 スクエア最新図説生物 数研出版 五訂版リードα								
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら生物学の基礎となる基本的現象を、最近の知見を取り入れながら学習し、知識を身につける。 2 生物や生命現象への興味・関心・意欲を持って学習に取り組み、自然界の原理・原則を導き出す考え方を身につける。 3 目的意識をもって観察・実験に取り組み、科学的な自然観を養い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 4 生物現象を学習することにより、自分自身や他者の命の営みを大切に、他の生物に対しても、生命を尊重する精神を養う。								
授業の進め方、学習方法	1 自作プリントを用いて授業を進め、自然現象への興味や疑問を抱きながら学習に取り組む。 2 プリントが終わるごとに各自で学習事項のチェックを行い、一時間ごとに基本的知識の定着を図る。 3 単元が終わるごとに観察・実験を行い、基本的な実験機器の操作や観察の技能を習得し、レポート提出を通して表現力を身につける。 4 定期考査前や長期休業中には、問題演習を課し、課題へ取り組みを身につける。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	第1章 生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 地球上には多様な細胞からなる多様な生物が生息し、その生物たちにも共通性がみられることを理解する。 細胞の構造と働きを実験(顕微鏡の扱い方・マイクロメーターの扱い方・タマネギ細胞の観察)を通して学習し、原核生物・真核生物・単細胞生物・多細胞生物の特徴を理解する。 代謝には異化と同化があり、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 光合成と呼吸の過程を酵素の働きにも触れて理解する。 	【知識・技能】 顕微鏡観察の実験における機器の操作や観察技能の習得で判断する。 【思考・判断・表現】 細胞観察の実験レポートの考察内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 細胞の構造と代謝に関する授業や実験に臨む学習の態度や取り組みで評価する。
	第1節 生物の共通性と多様性		
	第2節 生物とエネルギー		
	1学期中間考査		
1学期	第2章 遺伝子とその働き	<ul style="list-style-type: none"> メンデルによる遺伝子の存在の仮定から演習を通して遺伝子の働きについて考察する。 DNAの二重らせん構造を実験(DNAの抽出)や作業(DNAの模型の作成)を通して理解する。 細胞の分裂過程の各段階を実験(ニンニクの体細胞分裂)を通して観察し、それに伴う染色体の変化を学習し、理解する。 生体内のタンパク質は酵素などのさまざまな働きをしていることを実験(カタラーゼの働き)を通して理解する。 DNAの転写・翻訳の流れを理解し、遺伝子発現について実験(だ腺染色体の観察)を通して、理解する。 	【知識・技能】 DNA抽出、体細胞分裂、酵素反応、だ腺染色体の実験における機器の操作や観察技能の習得で判断する。 【思考・判断・表現】 DNA抽出、体細胞分裂、酵素反応、だ腺染色体の実験レポートの考察内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 遺伝子の働き、DNAの構造、タンパク質の働きに関する授業や実験に臨む学習の態度や取り組みで評価する。
	第1節 遺伝現象と遺伝子		
	第2節 遺伝情報とタンパク質の合成		
	1学期期末考査		
2学期	第3章 神経系と内分泌系による調節	<ul style="list-style-type: none"> 実験(血球の観察)を通し、体液の種類と恒常性について理解する。 ヘモグロビンによる酸素運搬を中心に、心臓の構造・血液循環の経路についても理解する。 神経系やホルモンの働きがどのように血糖量や体温の恒常性に関与しているかを理解する。 肝臓や腎臓の働きによって、体液の恒常性が保たれていることを理解する。 	【知識・技能】 血球の観察実験における機器の操作や観察技能の習得で判断する。 【思考・判断・表現】 血球の観察実験レポートの考察内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 体内の恒常性、神経系、ホルモン・各臓器の働きに関する授業や実験に臨む学習の態度や取り組みで評価する。
	第1節 情報の伝達		
	第2節 体内環境の維持のしくみ		
	2学期中間考査		
2学期	第4章 免疫	<ul style="list-style-type: none"> 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を知り、自然免疫と獲得免疫のしくみを理解する。 予防接種や血清療法、アレルギーやエイズなど身近な免疫に関与する現象を理解する。 	【知識・技能】 免疫の基本知識の習得や身近な活用事例の考察、植物と光の関係、植生遷移の内容理解で判断する。 【思考・判断・表現】 免疫の様々なモデルや反応のメカニズムを論理的に考え、データから情報をよみとる、植物と光の関係を示すグラフを正しく読み取り、考察する内容で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 免疫の活用事例について、近年の研究発展の背景を知り、実生活への活用の議論の内容で判断する。
	第1節 免疫の働き		
	第5章 植生と遷移		
	第1節 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> 植物の生活形や植物と光の関係について、学習し考察する。 光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解し、陽生植物・陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 乾性遷移のモデルについて、土壌の構造を理解し、土壌の形成や光環境の変化などととも注目して理解する。 	
2学期期末考査			
3学期	第6章 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> 生物は、食物連鎖(食物網)によってつながっていることを理解する。 生態系内における炭素と窒素の循環を理解する。 生態ピラミッドや物質の生産と消費の関係を理解する。 生態系のバランスと変動について理解し、これに関与する現象や生物について理解する。 人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。 『酸性雨』・『地球温暖化』・『富栄養化と生物濃縮』・『外来生物の移入と絶滅危惧種』などが生じるしくみを調べ、人間活動との関係や生態系に与える影響について理解する。 	【知識・技能】 食物連鎖、生物の関係性について基本知識の習得や人間活動が地球に及ぼす影響の内容理解で判断する。 【思考・判断・表現】 生物の関係性、人間が地球に及ぼす影響について、多角的な視点をもち、総合的な考察内容で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物の関係性、人間が地球に及ぼす影響について、積極的な議論や考察を行い、その内容で判断する。
	第1節 生態系と生物の多様性		
	第2節 生態系のバランスと保全		
	学年末考査		

成績評価方法	【知識・技能】 授業への取り組み、観察・実験に対する態度で総合的に判断する。
	【思考・判断・表現】 発展的内容、グラフ・図表の読み取り、授業中の議論内容で総合的に判断する。
	【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み、探究的活動や議論への参加姿勢で総合的に判断する。

教科	外国語	科目	CI + CIO	学年・類型	1年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間+1時間
使用教科書	ELEMENT English Communication I								
副教材等	NHK語学講座『ニュースで学ぶ現代英語』								
学習目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。								
授業の進め方、学習方法	[C] ホームルーム単位での一斉授業。スピーチ、プレゼンテーション、パラグラフライティング等の活動を取り入れ、発信能力の育成を目指す。ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫することで生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成する。理解や学習内容の定着をはかるため、随時、問題演習も取り入れる。ワークブックや参考書等の副教材は家庭での復習に利用するとともに、適宜参照させ、定期考査時も考査範囲に計画的に含め、自学を促す。 [CIO] 1クラスを2グループに分けた少人数展開。『論理表現』シラバスを参照。								
学 習 計 画									
学 期	単 元	学 習 内 容					評 価 規 準		
1学期	Lesson 1 Intercultural Relationships Lesson 2 Love beyond Species	シドモアが抱き続けた夢 日米友好の桜の秘話 ライオンと人間の絆 200万人が見た感動の実話					・Scidmore's Cherry Treesを読み、概要を理解する。 ・英語の5文型、受動態、to不定詞を用いた文の構造を理解する。 ・Christian the Lionを読み、概要を理解する。 ・現在完了形／現在完了進行形、分詞の限定用法を用いた文の構造を理解する。		
	1学期中間考査								
	Lesson 3 Contributing to Our Planet Lesson 4 Messages for World Peace	子どもでも世界を変えられる バリ島姉妹の奮闘記 広島・長崎の二重被爆者 山口さんの平和への思い					・Bye Bye Plasticsを読み、概要を理解する。 ・関係代名詞、使役動詞を用いた文の構造を理解する。 ・Twice Bombed, Twice Survivedを読み、登場人物の心情を理解する。 ・過去完了形、知覚動詞を用いた文の構造を理解する。		
2学期	Lesson 5 Respecting Each Other Lesson 6 Language and Culture	世紀の誤審 過ちを許す優しさの物語 ことばは心の辞書 角野栄子さんのスピーチ					・Nobody's Perfectを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・関係代名詞のwhat、関係副詞を用いた文の構造を理解する。 ・The Power of Wordsを読み、概要を理解する。 ・関係代名詞の非限定用法、分詞構文を用いた文の構造を理解する。		
	2学期中間考査								
	Lesson 7 Technology and Discoveries Lesson 8 Standing Up for Human Rights	私たちの生活を支える セレンディビティー 南アフリカの歴史を変えた マンデラとラグビー					・Serendipityを読み、概要を理解する。 ・形式主語のit、be動詞の補語になるthat節を用いた文の構造を理解する。 ・Playing the Enemyを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・仮定法過去／仮定法過去完了、過去完了進行形を用いた文の構造を理解する。		
2学期期末考査									
3学期	Further Reading 1 Toward Sustainable Development Goals Further Reading 2 Pictures without Shadows	SDGsと若者の関わり方 10代少女のスピーチ 描き続ける喜び 支え続けた夫婦の愛					・SDGsについてのスピーチを読み、情報を事実と意見に整理する。 ・モード・ルイスについてのエッセイを読み、概要を理解する。		
	学年末考査								
成績評価方法	《学年の評価方法》 ①【知識・技能】、②【思考・判断・表現】、③【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点について、この表に記した各単元の評価基準をもとに、 a. 言語活動に取り組む態度 / b. 課題等の提出 / c. 定期考査・プレゼンテーション などの評価方法を用いて、各学期の成績を総合的に判断して、年間の評価とする。								

教科	外国語	科目	論理表現	学年・類型	1年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間
使用教科書	EARTHRISE English Logic and Expression I Advanced (数研出版)								
副教材等	EARTHRISE English Grammar in 33 Stages, アースライズワーク33, アースライズ総合英語, NHK語学番組『ニュースで学ぶ現代英語』(自習課題)								
学習目標	中学校において育成したコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、Speak (Interaction)「話すこと[やり取り]」、Speak (Presentation)「話すこと[発表]」及びWrite「書くこと」の三つの領域を中心とした発信能力の育成を強化する。特に、スピーチ、プレゼンテーション、パラグラフライティング等の活動を取り入れ、発信能力の育成を目指す。 また、「英語の特徴やきまりに関する事項」において、「論理の構成や展開及び表現などに関する事項」を扱う。								
授業の進め方、学習方法	・1クラスを2グループに分けた、少人数編成授業。定期考査毎にグループを入れ替える。 ・スピーチ、プレゼンテーション、パラグラフライティング等の活動を取り入れ、発信能力の育成を目指す。 ・ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫することで生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成する。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期 L2, 4, 7, 8	Lesson 1 Introduce yourself to your class Lesson 2 How do you spend your weekends? Lesson 3 Where did you go on vacation?	「紹介」をテーマに、5つの文型を用いて表現する。 「週末の過ごし方」をテーマに、動詞の現在形・過去形・未来を表す表現を用いて表現する。 「旅行」をテーマに、完了形(現在完了形/過去完了形)を用いて表現する。 各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 自分が週末にしたこと、「これまで自分が訪れた場所の中で最もよかった場所」についてクラスメートとやりとりして情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 「これまで自分が訪れた場所の中で最もよかった場所」について30秒程度で発表する。 C. Write 「最近自分が行った旅行に関するブログ」を50語程度で書く。	【知識・技能】 未来を表すwill, be going to, 現在進行形を用いて、自分の週末の予定について伝える文章を書く技能を身に付けている。現在完了進行形、過去完了形を用いて、自分が行った旅行について伝える文章を書く技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 自分が週末にしたことについて、クラスメートに伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数の人々に知ってもらうために、自分が行った旅行についての情報や自分の気持ちを伝える文章を書こうとしている。
	Lesson 4 How can I get there? Lesson 5 Would you like to come with me? Lesson 6 Something really Japanese	「道案内」をテーマに、助動詞can, may, must, have toを用いて表現する。 「部活のイベント」「後悔していること」をテーマに、would, could, may[might], should have done, must have doneを用いて表現する。 「日本文化」をテーマに、(be動詞+過去分詞)を用いて表現する。 各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 出席予定のイベントにクラスメートを誘うロールプレイを行う。 B. Speak (Presentation) クラスメートをイベントに誘うロールプレイをクラスで実演する。 C. Write 自分が後悔していることについて伝える文章を50語程度で書く。	【知識・技能】 would, could, may[might]を用いて、出席予定のイベントにクラスメートを誘うロールプレイをする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 観光客に適切なルートの案内をするために、地図と経路を見ながら、案内する会話のロールプレイをしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 「日本のどんな点が観光客をひきつけるのか」という論題について、自分の考えを理由を含めて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
2学期 L6, 9, 11, 13, 14	Lesson 7 Do you have any volunteer activities? Lesson 8 Let's enjoy school life! Lesson 9 Are you eco-friendly?	「ボランティア活動」をテーマに、to doを用いて表現する。 「学校生活」をテーマに、(want+O+to do), (let[make]+O+do)などを用いて表現する。 「環境問題」をテーマに、doing(動名詞)を用いて表現する。 各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 自分が参加したいボランティア活動についてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 部活動に関するインタビューの会話をクラスで実演する。 C. Write 環境保護についてのスピーチ原稿を50語程度で書く。	【知識・技能】 to doを用いて、自分が参加したいボランティア活動についてクラスメートと伝え合い、その内容について発表する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 環境保護のためにしていることについて、クラスメートに伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。また、その内容について整理し、発表している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分で考えた環境保護に関するスローガンをクラスで発表するために、環境保護についての情報や自分の考えを整理し、述べる文章を書こうとしている。
	Lesson 10 What sports do you like? Lesson 11 That's new to me! Lesson 12 Which Nobel Prize winner do you admire most?	「スポーツ」をテーマに、doing/done(分詞)を用いて表現する。 「さまざまな国の労働時間や祝日の数」「野菜と果物の違い」をテーマに(see+O+doing), strictly speakingなどを用いて表現する。 「日本人のノーベル賞受賞者」「自分が尊敬する人物」をテーマに、who, whichなどを用いて表現する。 各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) スポーツイベントについてクラスメートとインタビューし合う。 B. Speak (Presentation) さまざまな国の労働時間や祝日の数について30秒程度で発表する。 C. Write 自分の尊敬する人についてのパラグラフを50語程度で書く。	【知識・技能】 doing(分詞)を用いて、スポーツイベントについてクラスメートとインタビューする技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 さまざまな国の労働時間や祝日の数について、クラスメートに伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。また、その内容について整理し、クラスで発表している。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数の人々に知ってもらうために、自分の尊敬する人についての情報や自分の考えを整理し、述べる文章を書こうとしている。
3学期 L10, 12, 15	Lesson 13 I'm interested in history Lesson 14 Various countries around the world Lesson 15 What job are you interested in?	「歴史的な人物・建物」をテーマに、when, where, how等を用いて表現する。 「世界の国々」をテーマに、as ~ as, -er[more ~] than..., not as ~ as..., -st[most ~]などを用いて表現する。 「未来の自分」をテーマに、If I 過去形 [were] ~, I would [could]..., If I had done ~, I would [could] have done... などを用いて表現する。 各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 歴史上の偉人についてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 自分が行きたい国などについて30秒程度で発表する。 C. Write 26歳の自分自身を想像して説明する文章を50語程度で書く。	【知識・技能】 when, how(関係副詞)などを用いて、歴史上の偉人についてクラスメートとやりとりをし、その内容について発表する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 自分が行きたい国などについて、クラスメートに伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。また、その内容について整理し、発表している。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数の人々に知ってもらうために、26歳の自分自身を想像して、将来の職業などについて自分の考えや気持ちを整理して説明する文章を書こうとしている。
成績評価方法	《学年の評価方法》 ①【知識・技能】、②【思考・判断・表現】、③【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点について、この表に記した各単元の評価基準をもとに、 a. 言語活動に取り組む態度 / b. 課題等の提出 / c. 定期考査 などの評価方法を用いて、各学期の成績を総合的に判断して、年間の評価とする。		

教科	芸術	科目	音楽 I	学年・類型	1年生	履修形態	選択必修	授業時数	週2時間
使用教科書	教育芸術社 MOUSA 1								
副教材等	なし								
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成する。 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。								
授業の進め方、学習方法	表現領域では、さまざまな実技課題が出されます。個々のレベルに合わせて習熟できるよう時間を設定しています。 鑑賞領域では、学習プリントのや確認テストによって、学習内容の理解の深化を図ります。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	楽譜の読み方・書き方 ソルフェージュ力を高める	楽譜の正しい読み方・書き方を身につけ、表現に生かすようにする。 ポディー・パーカッションや楽器を用いたリズム・アンサンブルをする。	【知識・技能】 音楽に関する用語や記号などについて音楽における働きと関わらせて理解している。 【思考・判断・表現】 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に音楽の学習活動に取り組もうとしている。
	歌の楽しみ 音楽の諸要素の聴取 声を用いた表現の楽しみ	曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるようにする。 作曲者について学び、楽曲を鑑賞した後、プレゼンテーションをする。 曲種に応じたさまざまな発声の方法について学び、それぞれの曲を歌う。	【知識・技能】 様々な表現形態による歌唱表現の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽の美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	1学期のまとめ	確認テスト	
	創作表現 (ギター・弾き語り) ギターの楽しみ ピアノ曲の鑑賞 バロック・古典派の音楽の鑑賞	コード進行をもとにメロディーを作って、ギターの弾き語りをする。 ギターの正しい奏法を身につけ、TAB譜やコード表を見ながらメロディーまたは伴奏パートを演奏する。 鍵盤楽器の歴史について学び、楽曲を鑑賞する。 J.S.Bach,W.A.Mozartについて学び、楽曲を鑑賞する。	【知識・技能】 曲にふさわしい奏法および創作に必要な旋律を作ったり、和音付けをする技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、自己のイメージをもって音楽表現を工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に音楽の学習活動に取り組もうとしている。
2学期	和楽器(三線)の弾き歌い 日本の伝統音楽の鑑賞 主題と構成の聴取	調絃や勘所の押さえ方など、三線の正しい奏法を身につけ、曲を演奏する。 様々な日本の伝統音楽について学び、楽曲を鑑賞する。 主題の展開や構成を理解しながら、ソナタ形式などの楽曲を鑑賞する。	【知識・技能】 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 【思考・判断・表現】 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	2学期のまとめ	確認テスト	
	創作表現 (ヴォイス・アンサンブル) 世界の諸民族の音楽 ポピュラー音楽	オノマトペでリズム・アンサンブルをつくり、発表する。 世界の諸民族の音楽について学び、音楽を鑑賞する。 Jazzなどポピュラー音楽の変遷について学び、楽曲を鑑賞する。	【知識・技能】 反復・変化・対照などの手法を活用して音楽を作る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 創作表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。
3学期	1年間のまとめ	確認テスト	
成績評価方法	【知識・技能】 実技における課題進捗状況(過去の音楽経験の有無に大きく左右されないよう、授業における学習到達度によって評価します) 確認テスト 【思考・判断・表現】 学習プリントの記入状況、創作作品 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度、学習の取り組み状況(観察・聴取)		

教科	芸術	科目	美術 I	学年・類型	1年生	履修形態	選択必修	授業時数	週2時間
使用教科書	光村図書 美術1								
副教材等	なし								
学習目標	美術の幅広い創造活動な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。								
授業の進め方、学習方法	A表現 (1)絵画・彫刻 (2)デザイン (3)映像メディア表現 または工芸作品制作を通じ、材料・用具の特性への理解を深め、創意工夫し感性豊かに表現する。 B鑑賞 課題作品毎の鑑賞やワークシート作成を通して、美術への関心・意欲を促すとともに、鑑賞の能力を培い、作品への理解を深める。								
学 習 計 画									
学 期	単 元	学 習 内 容					評 価 規 準		
1学期	鑑賞 「暮らしの中の文様」	世界各国の伝統的文様を鑑賞し、違いや特徴を考える。					【知識・技能】 全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している		
	デザイン 「ゼンタングルを用いて 校章をデザインする」	黒色のペンだけでゼンタングルという技法を使い、校章の周りを自由にデザインし描く。色鉛筆で着色してもよい。 最優秀作品は学校案内のパンフレットの表紙絵を飾る。					【思考・判断・表現】 学校案内の表紙になることを考え、校章を引き立つように効果的に表現している		
	1学期中間考査								
	鑑賞 「抽象絵画」	教科書に掲載されているデカルコマーニをベースにした作品を鑑賞し、発想手段の一つとして認識する。 過去の生徒作品を鑑賞して、完成のイメージをもつ。					【知識・技能】 対象や事象を捉える造形的な視点について理解し、創意工夫し表現している		
2学期	絵画 「ドローイングからの 絵画表現」	アクリル絵の具でデカルコマーニなどのモダンテクニックの技法を用いて、意味を考えずに自由に描く。その後、作品をじっくり観察し見えてきた心の風景を画面に描き込む。					【思考・判断・表現】 自ら発想した印象や感情を構想するとともに、美術に対する見方や感じ方を深める		
	1学期期末考査								
	彫刻 「旅をテーマに石粉粘土による塑像」	夏休みに「旅」についての資料を収集し、それを参考に、心惹かれる景色や場面をみつける。 石粉粘土とフィギュアを使い塑造し、彫刻刀や紙やすりで成形してアクリル絵の具で塗装する。					【知識・技能】 造形の要素を理解している。意図に応じて材料や用具の特性をいかしている		
	2学期中間考査								
3学期	鑑賞 「お菓子のパッケージ」	実際に市販されているお菓子のパッケージから、商品売るための形や色彩の工夫、販売方法など調査と分析をする。					【知識・技能】 造形要素の働きを理解して、創造的に表現する		
	デザイン 「お菓子のパッケージを考える」	調査や分析をもとにデザインコンセプトを設定し、デザインを行う。 展開図を製図し、表面を装飾・彩色して組み立て完成させる。 制作の反省点、感想を記述する。					【思考・判断・表現】 目的や条件、美しさなどを考え、生成している		
	2学期期末考査								
	素描(スケッチ) 「身近な道具」	身近な道具を観察し、モチーフの形状や特徴を捉えながら、スケッチする。					【知識・技能】 目的や計画を基に創造的に表現している		
3学期	鑑賞 「日本の染織」	日本の伝統的な色彩表現から、作品のよさや美しさ、色を生み出す技法や工夫を理解する。					【思考・判断・表現】 デザインの機能や効果、特性などを考え、創造的な表現の構想を練っている		
	工芸 「道具をテーマに バッグの型染め制作」	スケッチをもとにデザインを構想し、型紙に写す。 デザインナイフでデザインした型紙を切り抜き、型を完成させる。 バッグに型を自由配置し、染料とブランで染める。 金と銀色はフィルムとパウダーで貼り合わせる。					【主体的に学習に取り組む態度】 主体的にデザインの表現活動に取り組んでいる		
	学年末考査								
	成績評価方法	【知識・技能】 造形の要素や特徴、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。意図に応じて材料や用具を準備し、特性を生かして活用する。表現方法を創意工夫し、主題を追及して創造的に表現している。 【思考・判断・表現】 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。							

教科	芸術	科目	書道 I	学年・類型	1年生	履修形態	選択必修	授業時数	週2時間	
使用教科書	東京書籍									
副教材等										
学習目標	・中学校国語科書写との接続を図り、書道の基礎となる書写能力を高める。 ・書道の幅広い活動を通して、書に興味・関心を持ち、感性を豊かにし、生涯にわたって書を愛好する心情を育てる。 ・書表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。									
授業の進め方、学習方法	・作品作成、レポートの提出									
学 習 計 画										
学 期	単 元	学 習 内 容					評 価 規 準			
1 学期	一 はじめに 1 書写から書道へ 2 姿勢と執筆法 3 用具・用材 4 書の表現方法を学ぶ	・文字を正しく整え読みやすく書く書写能力の基礎・基本を学習する ・「国語科書写」と「芸術科書道」との関連を学習する ・文字を書くときの姿勢や筆の持ち方を理解し、運筆法を学習する ・筆・墨・硯・紙などの用具・用材の特性を学習する ・用筆・運筆による表現の違いや構成方法を理解し、学習する ・日本語の成り立ち					【知識・技能】・【思考・判断・表現】・【主体的に学習に取り組む態度】 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・課題レポート			
	1 学期中間考査									
	二 漢字の書 1 書体の移り変わり 2 楷書の古典を学ぶ	・楷書の特徴を理解し、基本用筆を学習する ・中国(唐時代)の作品を臨書・鑑賞し、様々な書表現と技法を学習する					【知識・技能】・【思考・判断・表現】・【主体的に学習に取り組む態度】 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・課題レポート			
1 学期期末考査										
2 学期	3 行書の古典を学ぶ	・行書の特徴を理解し、基本用筆を学習する ・古典作品を臨書・鑑賞し、書表現と技法を学習する					【知識・技能】・【思考・判断・表現】・【主体的に学習に取り組む態度】 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・課題レポート			
	2 学期中間考査									
	三 仮名の書 1 仮名の成立 2 仮名の基本を学ぶ	・「ひらがな」48文字の成立過程を学習する ・仮名の基本線を理解し、「ひらがな」48文字を学習する					【知識・技能】・【思考・判断・表現】・【主体的に学習に取り組む態度】 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・課題レポート			
2 学期期末考査										
3 学期	四 漢字仮名交じりの書 1 漢字仮名交じりの書の表現 五 暮らしの中の書 1 創作	・素材となる詩文の内容を理解し、表現方法を学習する ・創作過程を理解し、イメージに合った書体・字形を工夫し作品制作学習する ・目的に応じた形式、好きな言葉を書くときなど、楽しみながら創作を体験する					【知識・技能】・【思考・判断・表現】・【主体的に学習に取り組む態度】 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・課題レポート			
	学 年 末 考 査									
	成績評価方法	【知識・技能】・【思考・判断・表現】・【主体的に学習に取り組む態度】 ・清書提出作品 ・授業時の学習への取り組み状況(出席状況含む) ・課題レポート								

教科	保健体育	科目	体育	学年・類型	1年生	履修形態	必修	授業時数	週3時間
使用教科書	なし								
副教材等	なし								
学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能身につけるようにする。 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。								
授業の進め方、学習方法	生徒が運動領域・種目の選択を行う選択制授業を展開している。								

学 習 計 画				
学 期	単 元		学 習 内 容	評 価 規 準
1. 2. 3 学期	体育A	体育B	<ul style="list-style-type: none"> ●ダンス 基本的な運動要素(走る・伸びる・縮む・ジャンプ・ターン・転がる)・リズムダンス・イメージダンス(即興)創作ダンス・発表会の企画、運営 ●ソフトボール スローイング・キャッチング・バッティング・フットワークゲーム運営(戦術) など ●ハンドボール ドリブル・シュート(ジャンプ・ステップ)・各種パス各種フォーメーション(戦術) など ●テニス サーブ・ボレー・ストローク・ハーフコートラリーミニゲーム(シングルス・ダブルス) など ●卓球 フォアハンド・バックハンド・ストローク・サーブシングルスゲーム・ダブルスゲーム など ●水泳 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライクイックターン・メドレー など ●バドミントン ストローク(オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーアーム)サーブ(ロング・ショート)・フライト(ハイクリア・ドロップ・スマッシュ・ドライブなど)・簡易ゲーム・ゲーム など ●サッカー 各種トラップ・各種パス・各種シュート・3対1, 4対1, 5対5のミニゲーム, ゲーム など ●バスケットボール ドリブル・シュート(ジャンプ・レイアップ)・各種パス各種フォーメーション(戦術) など ●陸上競技 ハードル走(50m)ハードリング・インターバル・50m・記録測定 など ●ラグビー(タグラグビー) 各種パス, 1対1, 2対1, サインプレー, ミニゲームなど 	<p>【知識・技能】 各種目それぞれの特性を理解し、言語技術を活用して説明することができるか。競技方法やルールについて理解しているか。技能を実践の場において総合的に発揮することができるか。</p> <p>【思考・判断・表現】 各種目それぞれについての特性を理解し、それぞれの課題に応じて練習できているか。実践の場において成果をだすための的確な判断ができているか</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 各種目それぞれについての関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身につけているか。</p>
	I・陸上競技 ・器械運動 ※上記2種目 から選択			
	II・ダンス ・水泳 ※上記4種目 から選択	I・バレーボール ・ソフトボール ・テニス ※上記3種目 から選択		
	III・テニス ・ソフトボール ・バスケットボール ※上記3種目 から選択	II・バレーボール ・ハンドボール ・ラグビー ※上記3種目 から選択		
	IV・ハンドボール ・サッカー ・バスケットボール ※上記3種目 から選択	III・バドミントン ・ラグビー ・テニス ※上記3種目 から選択		
V・バドミントン ・サッカー ・卓球 ※上記3種目 から選択				

成績評価方法	<p>【知識・技能】 能力を最大限に発揮し運動を行っているか。それぞれの運動種目の技能を身につけることができるか。それぞれの運動種目の特性、ルールを理解し行動することができるか。</p> <p>【思考・判断・表現】 的確に状況を判断し、互いに協力して安全に運動を行うことができるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 各運動に意欲を持って取り組んでいるか。積極的に取り組んでいるか。</p> <p>上記の観点より、学習活動、技能テスト、課題レポート(学習ノート含む)、出席状況を総合的に評価します。</p>
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教科	保健体育	科目	保健	学年・類型	1年生	履修形態	必修	授業時数	週1時間
----	------	----	----	-------	-----	------	----	------	------

使用教科書	現代高等学校保健体育(大修館)								
副教材等	なし								

学習目標	<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。</p>
授業の進め方、学習方法	教科書や、パワーポイントを使用して、それぞれの単元の内容を講義していく。授業時のレポートやノートの提出がある。単元の内容に関連した時事問題を教材として扱うこともある。

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	<p>・私たちが生きている現代社会の健康水準や健康について学ぶ。さらに個人の行動と社会の活動が私たちの健康に どのようにかわっているかについても学ぶ。</p> <p>・健康を保持増進し、がんや生活習慣病を予防していくには、食事・運動・休養・喫煙・飲酒といった生活習慣を適切なものにしていく必要があることや薬物乱用と健康についても学ぶ。</p>	<p>【知識・技能】 それぞれの単元において、健康を保持増進するには、適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、個人生活及び社会生活の健康や安全について課題解決に役立つ知識を身につけているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 それぞれの単元において健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験、資料や仲間の意見や考え方などを参考にしたりして、課題の設定や解決方法を考え判断できるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 それぞれの単元において健康の保持増進に必要な事柄について、関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題をについて調べたりして、意欲的に学習しようとしているか。</p>
	1学期期末考査		
2学期	現代社会と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	<p>・薬物の乱用が心身の健康や社会におよぼす影響について理解する。</p> <p>・うつ病や総合失調症などの精神疾患の特性や原因、また予防、回復について学ぶ</p> <p>・コロナ、結核、腸管出血性大腸菌感染症やエイズ他、性感染症など、近年、感染症の新たな問題が起こっていること、およびその予防には、社会的な対策とともに個人の適切な行動が必要であることを理解する。感染症とその予防といった問題についても学ぶ。</p> <p>・意志決定・行動選択の重要性や影響する要因、必要なことを理解する。</p>	
	2学期期末考査		
3学期	安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	<p>・わが国の交通事故の現状を知るとともに、事故の原因と対策、および交通社会で必要とされる資質と責任について学ぶ。</p> <p>・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境を作るためには、一人一人が応急手当の手順や方法を身に付け、自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解する。</p>	
	学年末考査		

成績評価方法	<p>【知識・技能】 定期考査、授業の観察など</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査、レポートやノート提出など</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 発表など</p> <p>上記より、平常の学習活動全般から得られる資料に基づき、教科「保健」の目標及び内容に沿って、多面的・総合的に行う。</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年・類型	1年生	履修形態	必修	授業時数	週2時間
使用教科書	家庭基礎 気づく力 築く未来(実教出版)								
副教材等	LIFEおとなガイド(教育図書)								
学習目標	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力を主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 								
授業の進め方、学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・体験学習を行いやすいように2時間連続の形態で授業を行い、考察・記録・感想・今後の課題をまとめ、さまざまな視点から考えられる力を養う。 ・ワークシートの最後に学習事項の確認、単元終了時の確認プリント、調理実習や基礎的な実技の確認により知識・技能を習得し生活の質の向上を目指す。 ・自作のプリントを用いて授業を進め、持続可能な社会を実現するためにできることを考察し表現する力を身に付ける。 ・夏期休暇には、ホームプロジェクトに取り組み、自己の生活の課題を見つけ解決を目指して計画を立て、実施、検証を行い、課題解決力を身に付ける。 								
学 習 計 画									
学 期	単 元	学 習 内 容				評 価 規 準			
1学期	[1] これからの人生について考えてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおける発達段階について理解する。 ・今の自分について自己分析を行い、人生設計を考える。 				<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・人生の各ライフステージの特徴と課題や社会状況の習得で判断する。 【思考・判断・表現】 ・ワークシートやレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えを表現して判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現在の自分のこと、将来の生活設計に関する授業の取り組みで判断する。 			
	[2] 自分らしい生き方と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の特徴や自立と共生の意味を理解し、これからの自分自身と社会の在り方を考える。 ・職業労働と家事労働の意義を理解し、それぞれの時間の使い方について考察する。 ・世帯構成や家庭の機能の変化について理解し、現代の家族が抱える問題について具体的に考察する。 ・家族に関する法律の理念や背景について理解する。 				<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・青年期の課題、結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割、家族に関する法律についての知識の習得について判断する。 【思考・判断・表現】 ・図表などから家族・家庭に関する課題、問題点について、解決へ導くための考察内容で判断する。 ・家族の変遷や意識の変化、現在の家族の抱える問題、課題などについて、考察内容で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・男女共同参画社会など、現在の社会的状況についてや、結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかわっているのか、議論の内容や学習の取り組みで判断する。 ・家族、家庭生活に関する法律や家庭生活と法律との関係について、学習の態度や取り組みで判断する。 			
	[3] 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食文化と気候風土との関係を理解する。 ・健康で豊かな食生活をはぐくむための手がかりを学ぶ。 ・食品衛生(食品の選択、食中毒、食品添加物)について学ぶ。 ・食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 				<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術の習得について判断する。 ・食中毒の予防法や、食品添加物についての知識の習得について判断する。 【思考・判断・表現】 ・食中毒予防、食料問題、現在の日本の食生活についての課題解決の方法について考察内容で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食中毒予防の方法、食料問題について臨む学習の態度や取り組みで判断する。 			
	1学期期末考査								
	[夏期課題]ホームプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食糧自給率が低いことやフードロスが多い現状について調べ、各自が自分でできることを考えて実践する。 				<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・日本の食糧自給率やフードロスの現状について記述できている。 【思考・判断・表現】 ・調べた現状をもとに家庭で解決につながることを計画、実践、成果の自己評価をもとに今後も続けて行ける課題を指摘などから判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・提出されたレポート、発表し、その後のディスカッションに臨む態度や取り組みで判断する。 			
2学期	[3] 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・食品ごとに含まれる栄養素が含まれることや、栄養素それぞれの働きを理解する。 ・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 				<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識、日常の食事づくりに必要な調理技術の習得について判断する。 【思考・判断】 ・食品選択、栄養計算や献立作成で判断する。 ・調理実習において、衛生面や効率を考えた作業の計画立案ができているか判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・栄養・食品・調理実習に臨む学習態度や取り組みで評価する。 			
	[4] 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の機能や衣生活の知識を学ぶ。 ・衣服の表示や、衣服の種類に応じた管理の仕方を学ぶ。 ・衣生活と環境とのつながりについて考える。 ・基本的な手縫いの技法を習得する。 ・衣服の構成やデザインについて学ぶ。 				<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・衣服材料の性能と特徴の知識、計画的な衣生活を営む知識の習得で判断する。 ・基礎縫いなどの縫製技術の習得で判断する。 【思考・判断・表現】 ・エンガルの衣生活について実践的な行動が表現できているかで判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・基礎縫いの確認のための実習や、学習の取り組みで判断する。 			
	[5] 子どもとかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う子どもを育て、はぐくんでいくことの責任感を養う。 ・子どもの発達やからだの成長についてを学ぶ。 ・子どもの生活や安全管理について学ぶ。 ・子どもとふれあいやおもちゃ作りを通して、子育てををする意義について考える。 ・子どもの権利や福祉を理解し、子育てに関する社会課題を考える。 				<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・子どもの心身の発達や生活についての知識、子どもとの接し方についての知識の習得で判断する。 【思考・判断・表現】 ・子どもとふれあう体験学習での課題や社会で子育てををする意義や現在の子育ての環境についての考察で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・子どもの世界や生命の尊さ、子どもをとりまく状況について学習の態度や取り組みで判断する。 ・子どもとふれあう体験学習や、子どものためのおもちゃづくりについて、学習の態度や取り組みで判断する。 			
	[6] 高齢者とかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への理解、日本の現状と課題を理解する。 ・高齢者の状況、高齢者における生活課題を理解する。 ・自立した高齢者の生活に必要な支援を理解する。 ・介護保険制度や介護をめぐる課題について考える。 				<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴、高齢者と接し方の習得で判断する。 ・社会保障制度の仕組みの習得で判断する。 【思考・判断・表現】 ・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより、高齢者の自立を支援することについて考察内容から判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・福祉や介護について学習の態度や取り組みで判断する。 			
	[7] 社会とかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会へのかかわり方を学ぶ。 				<ul style="list-style-type: none"> 【主体的に学習に取り組む態度】 ・福祉や介護について学習の態度や取り組みで判断する。 			
2学期期末考査									

学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
3学期	【8】住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの機能と人の生活との関わり、気候風土と住まいの関係について考える。 ・日本独特の生活様式や住まい方について学ぶ。 ・住生活空間の機能を理解し、住要求を実現する平面計画を考える。 ・健康的な室内環境を管理する方法を理解する。 ・安全な住まいへの工夫を考える。 ・日本の住宅政策について知り、持続可能な住まいとは何かを考える。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を生かした住まいの役割、日本独特の住まいの特徴、住まいの機能・役割、健康的な住まい、住まいの安全対策などに関する知識の習得で判断する。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代のライフスタイルやライフステージに応じた住空間の設計の関係や住環境について作成した間取り図や考察から判断する。 ・安全な住まいづくりや、快適な住環境のために、周りの環境とも関係していることを考察から判断する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について学習の態度や取り組みで判断する。
	【9】消費行動を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会における主体的な消費行動について多角的に考える。 ・問題商法を未然に防げるよう、契約について理解する。 ・消費者の権利と責任を理解し、消費者の自覚と行動について検討する。 ・持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考え実践する。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約、消費者の権利と責任、現代の消費生活の課題、家庭生活と資源・環境との関係についての知識の習得で判断する。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費行動と環境とのかわりについて、生活と関連させながら課題をみつけ、解決の方向性を表現することで判断する。 ・環境に関する現状から、生活におけるより良い消費行動について表現することで判断する。 ・生活設計と将来の働き方や生き方についての考察から判断する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかわりについての学習の態度や取り組みで判断する。
	【10】経済的に自立する	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な家計管理について考える。 ・将来に向けた長期的な経済計画について学ぶ。 	
学年末考査			
成績評価方法	<p>【知識・技能】 定期考査や実技テストで判断する。</p> <p>【思考・判断・表現】 実習・体験学習などのレポート、グラフや表などの資料の読み取り、授業中の議論内容、ワークシートの考察から判断する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業・実習・体験学習などに取り組む姿勢で判断する。</p>		

教科	理数	科目	理数探究基礎	学年・類型	1年一般類型	履修形態	必履修	授業時数	週1時間
使用教科書	数研出版「理数探究基礎」								
副教材等	なし								
学習目標	2学年で取り組む探究活動にむけて、理科・数学・情報分野から7つのテーマを設定し、3時間ごとの講義および実習をおこなう。								
授業の進め方、学習方法	2学年で取り組む探究活動にむけて、理科・数学・情報分野から7つのテーマを設定し、3時間ごとの講義および実習をおこなう。それぞれのテーマがミニ探究活動となっており、実践を通じて探究活動の要諦をつかむ。								

学 習 計 画			
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準
1学期	I. テーマの設定、 仮説を立てる	①ブレインストーミングの取り組み方 ・ブレインストーミングの手法と環境について ・マインドマップをもちいた課題設定と解決方法の模索 ・成果発表	下記のルーブリックによる
	II. 実験・観察・調査に関する 基本操作	②空気の密度の測定 ・単位とは何か、接頭語と指数表示 ・誤差と有効数字、誤差を減らす測定方法の考察 ・各種実験器具の使用法、空気密度の測定	
	III. 野外調査	③温度の測定	
2学期	IV. 統計学	④六甲山系の樹木における炭素固定量の測定 ・六甲山系の樹木と炭素固定量について ・三角測量をもちいた樹木の測定・樹木の種類の同定 ・炭素固定量を求める	
		⑤データの代表値・分散と標準偏差 ・データの整理(度数分布・ヒストグラム) ・データの代表値(平均値・中央値・最頻値) ・分散と標準偏差・データの相関	
3学期	V. 成果を発表する	⑥「データ整理」実習 ・データから必要なものを取り出す ・PCをもちいたデータ処理	
		⑦口頭発表スライドのつくり方 ・パワーポイントの使い方 ・見やすいスライドとはなにか ・実践発表	
成績評価方法	各テーマにおける取り組み状況、およびパフォーマンス課題を別添のルーブリックに照らし、観点別に評価をおこなう。通知表による評価のフィードバックは学年末におこなう。		

理数探究基礎ルーブリック

	A	B	C
知識・技能	講座で取り組んだ知識や技能が、十分に身についた	講座で取り組んだ知識や技能が、十分ではないが身についた	講座で取り組んだ知識や技能が、身についたとはいえない
思考・判断・表現	講座で取り組んだ内容を用いて、適切に思考・判断・表現できる	講座で取り組んだ内容を用いて、十分ではないが一定程度、思考・判断・表現できる	講座で取り組んだ内容を用いて、思考・判断・表現できるとはいえない
主体性	講座で実施された内容に、主体性をもって取り組んでいた	講座で実施された内容に、十分ではないものの意思をもって取り組んでいた	講座で実施された内容への取り組みの際、意識が感じられなかった

教科	理数	科目	理数探究基礎	学年・類型	1年人文・数理探究類型	履修形態		必修		授業時数	週2時間
使用教科書	数研出版「理数探究基礎」										
副教材等	なし										
学習目標	探究活動を行うにあたって、適切な課題や問いをみつける力を養い、その研究をすすめる様々な手段を学び、成果を世界に向けて発信する力を身につける。最終的には、2年次より行う探究活動のために適切な課題設定を行う。										
授業の進め方、学習方法	目的に応じた外部講師の講義を受け、そのフィードバック授業を受ける。講義の後には内容のまとめとそれぞれの講義に応じた課題を行い、身につけるべき力を自覚することで、探究活動の要諦をつかむ。										
学 習 計 画											
学 期	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準								
1 学期	序編 探究を始める前に 第1章 科学とは 第2章 探究するうえで心構え	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的な科学者のメッセージ動画に学ぶ ・外部講師「探究と科学倫理について」 ・外部講師「心理や文化が実験に与える影響について」 	授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題の内容により、観点別に評価を行う。								
	第1編 探究の流れ 第1章 テーマの設定 第2章 仮説を立てる 第3章 計画を立てる 第4章 結果の分析 第5章 成果をまとめる 第6章 成果を発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの書き方レクチャー ・探究テーマについて考える ・ブレインストーミングの手法と環境について ・マインドマップを用いた課題設定と解決方法について ・ディスカッションの進め方・トゥーミンモデルについて ・外部講師「フィールドワークのすすめ」及びフィールドワーク実施 									
2 学期	第2編 探究に用いる技能と実践例 第1章 実験・観察・調査に関する基本操作 第2章 探究の実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・生物フィールドワークの実施 ・実験デザインコンテストの実施 ＜多角的な視野のための様々な専門家の講義＞ ・外部講師「神戸の様々な生き物について」 ・外部講師「神戸の治山事業について」 ・外部講師「タンパク質の結晶と構造解析」 ・外部講師「物理学入門ーメンデレーエフからニホニウムまで」 ・外部講師「ラヴォアジエと新しい化学について」 ・外部講師「心理的アプローチによるイノベーション創出」 									
	第3編 探究に必要なその他の知識 第1章 統計学 第2章 インターネットでの情報収集 第3章 英語での発表	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師「38億人を救う数式について」 ・外部講師「研究をすすめるレジリエンス力」 ・外部講師「グローバル社会における英語スピーチ力」 									
3 学期		<ul style="list-style-type: none"> ＜世界に通用する研究の見学＞ ・外部施設訪問「理化学研究所」 ・外部施設訪問「アシックススポーツミュージアム」 									
成績評価方法	授業に対する取り組み状況、授業ごとに提出する課題の内容により、観点別に評価を行う。通知表による評価のフィードバックは学年末に行う。										